

## 【事務情報科】 3年次 【選択】科目「財務会計Ⅰ」授業のシラバス

### 1 概要

教科名	商業	科目名	財務会計Ⅰ	単位数(コマ数)	2(105)
科目の目標	財務諸表の作成に関する知識や技術を習得させ、財務会計の意義や制度について理解させるとともに、財務諸表から得られる会計情報を、ビジネスの諸活動に活用できる能力と態度を育てる。				
教科書(出版社)	高校財務会計Ⅰ新訂版(実教出版)	副教材(出版社)	最新段階式簿記検定問題集全商1級会計改訂版(実教出版)・平成31年度版全商簿記実務検定模擬試験問題集1級会計(実教出版)		

### 2 学習の方法

#### (1) 予習について

財務会計Ⅰでは2級と3級の知識が必要です。1年次に簿記で学習した仕訳を毎日練習してください。

#### (2) 授業について

毎時間授業に集中してください。疑問な点は遠慮無く質問してください。

電卓、教科書、問題集は必需品です。万が一忘れた場合は、朝のうちに教科担当の先生に申し出てください。

忘れ物は平常点として「関心・意欲・態度」の評価に関わりますので授業が始まる前に点検しておいてください。

この授業で使用するファイルは「プラスチックの赤(ピンク)」です。

授業の理解度を知るために、確認テストを実施します。定期的にノートや問題集の提出を求めます。

#### (3) 復習について

授業の復習を怠ると全く面白くない授業になります。授業ノートの見直しや授業で解いた問題の解き直し、教科書例題の見直し等を、その日のうちに必ず行ってください。

#### 〈学習アドバイス〉

とにかく復習あるのみ。復習を万全にして得意科目にしてください。また、文字、数字を丁寧に書くように心がけてください

### 3 評価について

#### (1) 評価の観点

観 点	趣 旨
① 関心・意欲・態度	企業会計の意味や役割や制度、財務会計の機能、財務諸表の作成、財務諸表からの情報を活用することなどに興味を持ち、財務会計の学習に積極的に取り組もうとしているか。
② 思考・判断・表現	企業会計に関する諸問題の解決を目指して、自ら思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を活用して、適切に判断し、表現する能力を身につけているか。
③ 技能	会計の基礎・基本的な考え方と技術を身につけ、会計情報を提供し、活用する能力を身につけているか。
④ 知識・理解	財務諸表の作成及び活用を理解しているか。

#### (2) 評価の方法(以下観点①～④は「(1) 評価の観点」と対応する)

観 点	評価材料		定期考査・確認テスト	小テスト	提出物	課題
	割合					
① 関心・意欲・態度	10%	◎	学年末に財務諸表の情報活用を理解しているかどうかを確認するために財務分析問題を課題とし期日厳守で提出してもらいます。			◎
② 思考・判断・表現	30%	◎	企業における会計情報の実際を、その意義や制度をふまえて考察し、的確に表現できるか。	○	○	
③ 技能	30%	◎	全商簿記実務検定1級レベル	○	○	
④ 知識・理解	30%	◎	全商簿記実務検定1級レベル	○	○	

#### 〈担当者からのメッセージ〉

授業をしっかり受けてください。  
家庭学習の習慣をつくりましょう。特に復習が大切です。

【事務情報科】 3年次 【選択】科目「財務会計Ⅰ」授業のシラバス

4 授業計画

月	単元	時数	学習内容	観点別評価	到達目標	考查等	
前期 4	第1編 財務会計の基礎 第1章 企業と企業会計	9	企業会計の意味 企業会計の役割 財務会計の機能 企業会計制度 会計法規の種類と目的 会計基準	①	企業会計の意味とその目的および役割を知らせ、会計の学習に興味を示し、学習しようとする態度が見られる。	前期中間考查	
5	第2章 企業会計制度と会計基準	12	財務諸表の種類 日本の歴史と海外の歴史 資産の意味と分類 資産の評価	① ③ ④	企業会計制度とそれを支える会計諸則について関心を持ち、進んで取り組んでいる。 企業会計の歴史に関心を高めることができる。 会社法や金融商品取引法、財務諸表等規則、法人税法の実際の規定を検索し利用することができる。 企業会計の歴史を通じ、会計基準の必要性と動向を理解している。		
6	第2編 資産 第4章 資産の分類と評価	12	当座資産の種類、現金預金、受取手形、売掛金、有価証券、未収金、短期貸付金、立替金	① ③ ④	資産の分類と評価の理解に関心を高め、その学習を積極的に進めようとしている。 資産評価基準について、その考え方とともに、違いを計算できる。 当座資産の意味と種類を理解している。 当座資産の各項目の記帳法を習得し、正しく記帳できる。		
7	第6章 流動資産（その2）	12	棚卸資産の意味と種類、取得原価、期末評価、売価還元法、その他流動資産 有形固定資産の意味と種類および期末評価	① ④ ②	当座資産・棚卸資産・その他の流動資産のそれぞれの意味と種類に関心を高め、その記帳法の学習を積極的に進めようとしている。 有形固定資産の意味と種類を理解している。 期末評価や資本的支出・収益的支出の処理方法を身につけている。		
8	第7章 固定資産（その1）	6	無形固定資産 投資その他の資産	③ ④ ①	定率法、定額法、生産高比例法を習得している。 意味や種類、期末評価の方法を理解している。 純資産の意味と分類の理解に関心を高め、その学習を積極的に進めようとしている。		
9	第8章 固定資産（その2） 第9章 固定資産（その3） 第10章 固定資産（その4）	12	負債の意味と分類、流動負債、固定負債、引当金、偶発債務 純資産の意味と分類、資本金、資本剰余金、利益剰余金、自己株式、評価換算価額等、新株予約権 収益・費用の区分 損益計算の基準 営業収益と営業費用	④	負債の意味を理解し、分類ができる。		前期期末考查
後期 10	第12章 純資産	15	純資産項目の意味を理解し、分類ができる。	④	収益と費用の意味や損益計算における基準について理解している。 販売形態や営業種目などの相違による収益認識基準と、その処理方法を身につけている。		
11	第4編 損益計算 第13章 損益計算の意味と基準	15	営業外収益と営業外費用	① ④	経常損益の意味と計算方法の理解に関心を高め、その学習を積極的に進めようとしている。 特別利益・特別損失の種類を理解している。		
12	第14章 営業損益の計算 第15章 経常損益の計算 第16章 当期純利益の計算	9	特別利益、特別損失、法人税、住民税および事業税	② ④	法人税等の処理方法を習得している。 貸借対照表の作成法の考え方に棚卸法と誘導法があることを理解している。		
1	第5編 財務諸表の作成 第17章 貸借対照表の作成	9	作成方法と作成例	④ ①	貸借対照表の形式や区分と科目、流動性配列法について理解している。 注記表について関心を持っている。		後期中間考查
1	第18章 損益計算書の作成 第19章 その他の財務諸表の作成	3	作成方法と作成例 株主資本等変動計算書の作成方法と作成例 連結財務諸表の目的 連結の範囲	③ ④	株主資本等変動計算書を作成できる。 連結財務諸表の意味と必要性を理解するとともに親会社と子会社の意味や連結の範囲について理解している。		
	第6編 連結財務諸表 第20章 連結財務諸表の目的と連結の範囲 第21章 連結財務諸表の作成① 第22章 連結財務諸表の作成②		支配獲得日における連結貸借対照表の作成方法 子会社の資産および負債の時価評価 投資と資本の相殺消去 連結決算の手続き 開始仕訳 当期分の連結仕訳	② ① ④ ②	支配獲得日における連結貸借対照表の作成手続きを身につけている。 投資と資本の相殺消去、評価差額の連結仕訳に関心を持ち、積極的に取り組むことができる。 開始仕訳の必要性と意味について理解している。 のれんの償却や支配獲得日後に生じた子会社の純利益の配分ができる。		
	第7編 財務諸表の活用		連結財務諸表の表示方法 利害関係者と財務諸表 財務諸表の入手方法 財務諸表分析の意味と方法 関係比率を用いた分析 成長性の分析	② ③ ④ ① ③ ④	連結会社相互間の債権・債務や取引高の相殺消去、未実現利益の消去ができる。 連結精算表から連結財務諸表を作成することができる。 財務諸表分析の意義について理解している。 財務諸表分析に関心をもち分析に関する作業に積極的に取り組むことができる。 実際のF/Sを使い財務分析ができる。 収益性分析、安全性分析、成長性分析を理解し、構成比率および趨勢比率分析の方法を理解している。		
		計 105					

※ 観点別評価①は意欲・関心・態度、②は思考・判断・表現、③は技能、④は知識・理解を表しています。

※ 授業計画は進度により前後することがあります。